

感染性胃腸炎に注意しましょう

新潟県福祉保健部健康対策課

1 流行状況

- 平成 30 年第 11 週 (3 月 12 日～3 月 18 日) の感染症発生動向調査 (サーベイランス) において、感染性胃腸炎の定点当たり報告数が全県で **2.67** となっています。
- 社会福祉施設等において感染性胃腸炎の集団発生が散発的に報告されています。

2 予防方法

- 石けんを用いた流水による手洗いを徹底しましょう。特に排便後、おむつ交換後、また調理や食事の前には十分に手を洗いましょう。
- 便や吐物を処理する時は、使い捨て手袋、マスク、エプロンを着用し、処理後は石けんを用いた流水で十分に手を洗いましょう。
- カキなどの二枚貝を調理するときは、中心部まで十分に加熱しましょう。(中心温度 85～90℃で 90 秒以上の加熱が必要です)

3 原因となる主なウイルス

	ノロウイルス	ロタウイルス
主な症状	嘔吐、下痢、腹痛、軽度の発熱など	嘔吐、下痢、腹痛、発熱
潜伏期間	1～2 日間 (平均 36 時間)	1～3 日間 (平均 48 時間)
経過	通常、3 日以内で回復	通常、嘔吐は 1～2 日、下痢は 1 週間程度で回復
流行	主に秋から冬 (11～3 月) に多発 全ての世代で発生	主に冬から春 (特に 3 月～5 月) に多発 乳幼児を中心に流行し、まれに成人でも集団発生が起こる
治療	特効薬はありません。乳幼児のロタウイルス感染では重症化することがあります。 嘔吐や下痢で脱水症状を起こしやすいため、水分補給をしましょう。	

4 学校保健安全法における扱い

その他の感染症 (第三種の感染症として扱う場合もある) と定められています。
症状のある間が主なウイルスの排出期間なので、下痢、嘔吐症状が軽減した後、全身状態のよい者は登校 (園) 可能だが、手洗いを励行することとされています。

5 県内における胃腸炎患者等から検出された病原体 (起因ウイルスの種類と型別)

検体採取月	胃腸炎の集団発生事例の 病原体検出結果						感染症発生動向調査の 病原体検出結果							
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	検出事例数						検出患者数							
			1	6	7	4	3	7	3	4	13	8	3	1
	ウイルス検出数						ウイルス検出数							
ウイルス の種類と 遺伝子型	ノロウイルス						ノロウイルス							
				12	48	15	20	3	12	8	3	1		
	GI. 2			1										
	GI. 4									1				
	GI. 5									1				
	GI. 7			1		1				2				
	GII. 2					20	6							
	GII. 4			6	16	2			3	8	7	2	1	
	GII. 8											1		
	GII. 17			1	11	3	20					1		
	GII. NT			3	1	3								
サポウイルス			3						1	1				
アデノウイルス		1	2		1		1	1		2				
パレコウイルス							5	1	1	1				
アストロウイルス									1					
A群ロタウイルス												1		
コクサッキーウイルス								2						
エコーウイルス							1							

※一事例又は同一患者から複数のウイルス、型の検出あり